

カーボンニュートラルを実現する、夢のエネルギー源。
環境メガトレンド投資の大本命

ワンポイント
One Point

水素

nikko am
Nikko Asset Management

vol.12

国際的なスポーツイベントを支えた水素

2021年の夏に東京で開催された国際的なスポーツイベントにおいて、水素エネルギーが広く活用され、話題を呼びました。聖火台の燃料として大会史上初めて水素が使われたほか、大会関係者の移動には、約500台の「燃料電池自動車(FCV)」と約100台の「燃料電池バス」が投入されました。また、選手村の定置型燃料電池システム向けの燃料としても水素が供給されました。

使用されたのは、福島県浪江町の「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」や山梨県の「米倉山電力貯蔵技術研究サイト」などで生成された「グリーン水素」です。供給量そのものは決して多くはなかったようですが、グリーン水素の製造から、ユーザーへの供給までを行なう取り組みは、水素社会の実現に向け、大きな意味を持つ試みだったと評価されています。

イベント後も、選手村の跡地エリアに設けられた街のエネルギー源として水素が活用されており、水素社会実現に向けたレガシー(遺産)を残した大会だったと言えそうです。



※上記はイメージです。

○当資料は、日興アセットマネジメントが「水素」についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。○投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。